

2025「冬号」



JAとよころ広報誌

豊

か が や き

vol.225





新年のご挨拶

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長 山口 良一

新年、あけましておめでとうございます。

組合員、ご家族の皆さん輝かしい新年を健康でお迎えのことと思います。改めてお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に、ご理解・ご協力頂き、誠にありがとうございます。改めて感謝と御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先から順調に天気に恵まれました。6月・7月と少し干ばつ傾向でしたが、平年より気温は高く各作物の生育は順調に推移しました。

一番草の収穫も順調で、品質、収量も平年以上でありました。

小麦も昨年以上の収量で、二年続けての豊作となりました。馬鈴薯も干ばつによる少し小玉傾向でしたが平年作は確保しました。豆類、ビートも昨年のような猛暑の影響を受けず平年並となりました。

生乳生産の方は、上半期は前年以下でしたが下半期は前年を超えてきました。目標数量達成に向けて生産を伸ばしていただきたいと思います。一方、副産物の牛の価格が暴落しており、高止まりの飼料価格もあり、酪農、畜産経営に大きな影響を与えております。原材料価格の高騰が農業経営全般に大きなダメージとなっており、メーカー、国にも対策を求めているかなければなりません。

今後も心配される異常気象を含めて食料の安全保障を考えていなければなりません。

本年も、土作り、基盤整備の大切さは変わりません。町と共に進めて参ります。

本年も安定した天候に恵まれて豊穡の出来秋を目指して役職員一丸となって取り組んで参ります。組合員、家族の皆さんの努力が報われる1年でありますように、ご祈念申し上げまして、年頭の挨拶と致します。



本年もよろしく

お願い申し上げます

豊頃町農業協同組合

代表理事組合長	山口 良一
専務融資審査担当理事	川口 修
総務経済常任委員長	相澤 博美
総務経済常任副委員長	井村 康広
理事	植村 有見
理事	吉田 孝
理事	岡 光隆司
理事	松崎 直弘
代表監事	按田 憲一
監事	相澤 和幸
常勤監事	和田 宏樹
常務・信用担当理事	門 邦彦
外職員一同	



令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽 井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間を農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。

J Aグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給と環境負荷軽減の両立に取り組みながら、それを後押しする力強い政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回 J A北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「J Aの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・J Aへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・J A・連合会が一丸となって、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、J Aの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取り組んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業・食・J Aに対する理解を深めていただき、J Aグループが提唱する「国消国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（へビ）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



年頭にあたり



生き甲斐部
部長
津久井 清美

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は皆様方の多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

私たち生き甲斐部も五十周年の節目を超え新たな未来へ動き出そうとしている時、コロナウイルス感染症予防の最中で活動にも苦慮する場面が多々ありましたが、この一年は、一部計画を除いては順調に進めることができました。

また昨年の農作物などの作柄も、まずまずの出来と聞き一安心をしているところです。しかし昨今の物価高を思うに、資材の高止まりとなり私たち部員の生活にも少なからず影響を与えているのではと思う今日この頃です。

今年も諸事情多々ある中、我が家の営農支援そして生き甲斐部の活動を前へ進めるためお互い、励ましあい明るい明日を期待しつつ取り組

んでいこうではありませんか。

組合員数の減少が続く中、部員数も減少の一途ですが、日常の健康維持のためにも仲間同士の交流は大切なことと思います。未加入の方々には是非とも気に留めてください。いつでも大歓迎です。

結びになりますが、寒さもまだまだ続きます、またコロナウイルス感染症予防とインフルエンザ予防の注意喚起は真只中にあります、それでは皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ新年の挨拶とします。

J A 豊頃町生き甲斐部

部長 津久井 清 美
副部長 山 本 達 実
外役員一同



女性部
部長
佐藤 嘉香

新年あけましておめでとうございます。

組合員、ご家族の皆様におかれましては、お健やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日ごろより女性部活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、令和6年の女性部活動は物価高騰の影響で、各部会では、活動内容の見直しや工夫をこらしての活動になりました。部員の皆様のご理解とご協力、そして豊頃町様よりの

バスのご提供をいただき、各行事が無事にそして楽しく行える事ができました事をとても嬉しく思っております。令和7年1月には、2年に1度の女性フェスティバルを控えております。今回のフェスティバルは「美と健康」をテーマにセルフケアのツボ療法の先生を招き学びたいと思っております。また、フリーマーケット、部員の皆様の手作り品の展示も予定しております。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりますが、本年も皆様のご理解とご協力を賜りながら女性部活動を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

皆様にとって幸多き年となります様心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。

J A 豊頃町女性部

部長 佐藤 嘉香
副部長 鈴木 恭子
副部長 佐竹 由香利

すみれ部会 部会長 愛澤 悦子

ミセス部会 部会長 木幡 恵里香

フレッシュミズ部会 部会長 根本 留美

外役員一同



青年部
部長
川口 知紘

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、J A 十勝青年部大会、活動実績発表において最優秀賞、動画で発信農の魅力コンテストでも最優秀賞、純農BOYコンテストでは高木翔大君がグランプリに輝く等、大変光栄な成果を収めることができました。この結果は青年部活動の意義や意義を伝えてくれた先輩方、仕事や家庭が忙しい中会議や活動に参加してく

れた盟友達。十勝農業改良普及センターはじめ関係機関の皆様からのご指導とご協力があったからです。ここに深く御礼申し上げます。

今回の大会でJ A 豊頃町青年部の日々の活動や年齢、畑畜の垣根を超えた結束力をたくさんの方に評価して頂きました。これは当たり前的事ではなく、諸先輩方が今まで築いてきたものだと思います。

本年も引き続き、その豊頃町の強みを大切にしながら、私たち青年部が未来を担う存在として成長し続けるため、より一層の結束と行動力をもって取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますが、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

J A 豊頃町青年部

部長 川口 知 紘

副部長 村 上 剛 丸

書記長 井 下 慎 吾

畑作部会長 斉 藤 京 介

畜産部会長 加 島 知 典

外役員一同

役員研修

12月20日 午後【JA北海道大会：札幌コンベンションセンター（札幌市白石区）】

3年毎に開催する本大会には道内各単組を主に約2,000名が実参加しました。世界人口の増加による食料の獲得競争の激化、国際紛争、自然災害の発生への対応として食料安全保障の強化、日本の食料自給率の低迷、生産資材価格高騰とコスト削減への取り組み、世界的な環境保全意識の高まりから農業分野への対応のため「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」「JA組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」「農業・食・JAへの理解醸成」の全3議案を各連合会理事並びに組合長会会長で構成する大会実行委員が上程し、JA当麻代表理事組合長、JA道青年部協議会副会長、JA道女性協議会副会長の3氏が賛同側から意見表明を行い、満場の拍手により協議案全て可決承認しました。将来ビジョンの実現に向け、組合員・JA・連合会がそれぞれの役割と実践事項への取り組みを再確認し本大会を終えました。

12月21日 午前【工場視察研修：株式会社北海道チクレンミート札幌工場（札幌市厚別区）】

加工作業中の工場内の視察、北海道チクレン農業協同組合連合会および株式会社北海道チクレンミートの組織概要・沿革の説明後、食肉製品（ローストビーフ、コンビーフ、ジャーキー）を試食しました。直近ではスーパーの西友の道内からの撤退を受け、継承するイオン北海道から加工製造の受注が伸びています。チクレンミートは7組合の株主から構成し、当JAは2.1%の株式を保有しております。皆様の最寄りのお店ではセイコーマートのパック製品やホットシェフの豚丼等の食肉製品を取り扱っております。

12月21日 午後【子実コーン視察研修：北海道子実コーン組合（長沼町）】

長沼町内また近隣町村において、とうもろこしの根張りの特性から水はけの改善や土中に水脈が形成し土壌の改良につながったこと、除草剤の扱いやすさを契機に生産者が増加しました。乾燥は高性能乾燥機6時間程度であり、現在十勝管内では3町に設置しております。また、追肥は液体肥料5L/反で収量が1割上昇した実証試験の説明を受けました。

◇2023年度10a当の収支

収入：水田活用直接払交付金45千円＋品代25千円＝70千円
支出：肥料・種苗等生産費（償却費を含む）51千円
収益：19千円

◇有効積算温度（35℃以下）と10a当収量

美唄市ほか好条件帯：2,900℃～ 最大1,000kg
長沼町：2,700℃ 800kg
幕別町十勝川温泉付近：2,400℃ 600kg…早生品種
現状では本町の見込み反収は最大で600kgを予測し、自家消費飼料外での採算性や飼料用原料供給においては圧パン加工費用など販売単価の設定に課題がある印象を受けました。



加工馬鈴薯生産組合 道内視察研修

12月10日～11日に松崎哲也組合長含む15名が参加しました。（以下農産課 田中仁稀レポートを要約）

【視察先：カルビー株式会社北海道工場（千歳市）】

じゃがポックルやポテトチップスなどを生産する工場で、製造ラインを見学しました。製造工程で排出する廃棄物は飼料などに再利用する等、できるだけロスのないシステムが確立しております。手作業はほとんどなく、じゃがポックルの製造はラインを極力使用せずロボットを活用することで洗浄の手間を削減しておりました。

【視察先：農研機構種苗管理センター北海道中央農場（北広島市）】

農場長より講義を受けました。北海道中央農場は馬鈴薯原原種の栽培、管理や品種保護対策、種苗検査を行います。5年輪作で栽培し、原原種と新品種の導入システムを加えると100品種以上を扱います。ハウス内ではミニチューバの栽培も行います。視察研修後は札幌市の「ノアの箱舟」で海鮮炙り焼きを堪能しました。



乳牛改良同志会視察研修

テーマ『今後の乳用牛の改良について』

11月12日～13日に鈴木健司同志会会長を含む6名が参加しました。（以下畜産課 大久保樹レポートを要約）

【視察先：株式会社野沢組 野沢北海道農場（千歳市）】

野沢北海道農場は、17haの敷地面積を有する農場です。現在は、正社員及びパート3名で乳牛及び綿羊の管理及び販売事業を実施します。視察の時点では、搾乳牛17頭、受胎牛が2頭、未経産牛が11頭あり、日々改良に尽力しております。また、改良には野沢組自社の精液で種付けをし、その後ゲノム検査を利用して改良を進めますが、「まだまだ皆様に自信をもって良い結果を報告できない、まだ時間はかかる」と述べました。

その野沢組が行っているゲノム検査にはZoetis社とSEME社の2種類があり、共に独自性を持っており、Zoetis社製では生産性、健康性、繁殖性、体型、他のゲノム検査では得られない独自の健康形質を含め約80項目により評価します。さらには総合インデックスDWP\$が唯一検査可能であり、このDWP\$を指標に牛群選抜することで、遺伝的に健康で長命連産産の高い牛群を作り出すことができ、農場の収益性を改善することが可能です。一方、SEMEX社製では、乳量、乳質、体型、管理形質等の基本的な項目の検査だけでなく、雌牛Immunityレベル検査が唯一可能な検査であり、乳牛の遺伝的なメタン排出量の検査も可能です。

東野ひでき氏を励ます会を開催

10月28日、農協2階大会議室において、東野ひでき氏を励ます会を開催し、約40名の組合員や青年部部員、女性部部員、農協役職員が参加しました。東野ひでき氏は、現在、JA道北なよろ会長理事、ホクレン代表監事を務めております。農政活動強化に向けて、来年夏に開催される参

議院選挙のJAグループ組織内候補として、道内はもとより全国各地のJAを訪問しております。

今回の励ます会では、当JAの山口組合長、十勝地区農業協同組合長会の有塚会長、ホクレン農業協同組合連合会の篠原末治代表理事会長が挨拶を述べ、続いて東野ひでき氏より決意表明が述べられました。

最後に当JA青年部の川口部長・JA女性部の佐藤部長より「頑張ろう！」が発せられ、励ます会は終了しました。参加者の退出時には、出口で東野ひでき氏が参加者一人一人と力強い握手をしていました。



参加者と握手をする
東野ひでき氏



決意表明を述べる東野ひでき氏

沖縄本島・宮古島 秋季道外研修

昨年の『奄美ブルー』と今年の『宮古ブルー』のちがいは？

生甲斐部

11月25日から3泊4日で開催した研修は、14名の部員が参加しました。

25日：那覇空港 → 首里城 → 名護市かねひで喜瀬ビーチパレス (泊)

26日：グラスボートクルージング → 美ら海水族館 (昼食) → 宮古空港 → 宮古市ホテルブリーズベイマリーナ → (泊)

27日：渡口の浜 → 通り池 → 佐和田の浜 → 牧山展望台 → 島の駅みやこ (昼食) → 砂山ビーチ → 雪塩ミュージアム → 同ホテル (泊)

28日：東平安名崎 → 与那覇前浜 → 来間大橋・竜宮城展望台



連日気温23～25℃のとても快適な中、行程のほとんどが天候に恵まれました。

焼失から5年が経過した首里城は令和8年の復興に向けて県内外問わず様々な宮大工が目前で修復作業を行います。建物の完成後は、屋根を見下ろすアングルは見ることはできません。至近距離なので、瓦の色や質感も細かく観覧できます。今だからからこそみられる貴重な光景でした。

唯一スコールに見舞われた美ら海水族館では、『黒潮の海』をモチーフに大水槽を悠々と泳ぐ全長8.8mのジンベエザメやナンヨウマンタに圧倒しました。当館では世界的に初めてジンベエザメの長期的な飼育やナンヨウマンタの繁殖に成功しました。他にも色彩が豊かなサンゴの大規模飼育や熱帯・深海魚など様々な海洋生物の展示に、まるで深海探索をしているような気分になりました。

宮古島全体を囲むビーチはきめ細やかな『さらっさら』の白砂が広がります。昨年の50周年記念旅行に訪れた奄美大島の海『奄美ブルー』は透明度が高いとても爽やかな青に対し、『宮古ブルー』は奄美ブルーに緑を加えた透き通るエメラルドグリーン。2年を通じて南方の海を比較できたのは非常に印象に残り幸福感に満たされます。

宿泊最終日の夕食はホテルで『沖縄民謡』の生演奏と『琉球泡盛』を堪能しながら野外BBQです。参加者全員がそろってそのまま野外で1次会を延長し、そしてホテル内ダイニングカフェにおいて2次会を決行しました。

女性部の窓

大津小学校で牧場ママ料理教室を開催



11月11日、ＪＡ豊頃町女性部三役と豊頃町農業委員会女性農業委員２名が講師となり、大津小学校で食育事業を行いました。

牧場ママの料理教室でホクレンから食材の提供をして頂き、乳製品を使った料理を皆さんで調理しました。今回は、さつまいもの提供もあり、「さつまいもの炊き込みご飯」「さつまいもサラダ」「野菜たっぷりミルクスープ」「フルーチェ」と４品を小学生１０名とで作りました。子供たちの手際の良さに一同驚き、日ごろおうちでお手伝いをしていることがわかりました。場所を体育館に移し先生方と一緒に「いただきます」。

「美味しい」「これなら嫌いな野菜を食べられる」と言いながら何回もお代わりをしてくれました。

11月14日、ミセス部会（部会長木幡恵里香）は部員13名で千歳の北海道キッコーマンの工場見学に行ってきました。11月に入り寒くなって峠の雪の心配がありましたが、晴天に恵まれました。

千歳市内でランチをし、キッコーマン工場見学に向かいました。入り口には大きな口ゴがお出迎え。見学する工場の中に入るとしょう油のいい香りが漂っていました。最初に映像で歴史や製造工程を見ました。次に昔使用していた道具やラベルの展示を見て、工場の方へ向かいました。広い工場は、ほとんどが機械で行っていると説明を受けました。自分たちが作っている大豆が使われているかもしれないねと話しながら60分間の工場見学が終わり、お土産に「生しょうゆ」「大豆麺」をいただき帰路につきました。

ミセス部会 日帰り研修



十勝女性協議会研修会



12月10日～11日、十勝幕別温泉グランヴィリオにてＪＡ十勝地区女性協議会研修会が開催されました。１日目の研修が女性南極料理隊員が教える「極限の栄養管理」ということもあり、女性部員も是非参加してほしいと要望があり、当ＪＡから佐藤部長他10名が参加し、南極で食材をいかに残さず全部使い切り、ごみを少なく、水を大事に使ったかを、講師の渡貫淳子氏よりお聞きしました。いかに今の生活環境が恵まれ、いかに食品を無駄にしているのかを痛感しました。続いたの講演はみんなで学ぼう農政学習塾です。講師は中央会の方々にクイズ形式を用いてわかりやすく学習しました。

２日目は避難所運営ゲーム「ＤＯはぐ」。避難してくる年齢や性別、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事に適切にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。実際に起こりうる出来事がカードに書かれていてかなり皆さん迷いながら避難場所を決めていました。災害が多くなってきている昨今。備えあれば患いなし。現実には起こっては欲しくないですね。



JA十勝青年部大会で 豊頃町農協青年部が3冠を達成!!

11月25日、帯広市内のホテル
日航ノースランド帯広で開催の
第49回JA十勝青年部大会に部
員16名が参加しました。

十勝大会は十勝管内の盟友約
600名が一堂に会し、活動実績
発表や各青年部の作成した30秒
CMコンテスト、講演会、純農
Boyコンテストを行います。

今大会で豊頃町農協青年部は、
活動実績発表、30秒CM、純農Boyコンテストの3部門で最優秀賞
を受賞し、見事に3冠を達成しました。

活動実績発表では、山崎圭太郎さんが「鶏糞活用プロジェクト」と
題し、令和5年度より十勝農業改良普及センターの協力のもと試験を
行った鶏糞による肥料代の削減と、栽培作物を使用した商品化へ向け
ての取組を発表。情熱を持った農業青年を発掘することを目的とした

純農Boyコンテストでは高木翔太さんが豊頃代表として出場し、見事十勝でグランプリを受賞し、30秒
CMでは、豊頃ストロングスの皆様に協力をいただき、青年部との絆を表現した映像を披露しました。

以上の活動経過や作品が審査員から高く評価され、今大会の最優秀賞をほぼ独占しました。

その後、懇親会を行い、アームレスリング大会では各単組から力自慢の盟友たちが熱戦を繰り広げまし
た。豊頃青年部からは石田雅哉さんが出場し、1回戦を見事に快勝しました。2回戦は惜敗しましたが、
その戦いぶりに青年部一同大盛り上がりでした。

翌週5日に札幌市内のパークホテルで開催された第73回全道JA青年部大会には全道から盟友約800人

が一堂に会し、各地区を勝ち抜いた代表
者がそれぞれ発表を披露しました。豊頃
町農協青年部は惜しくも全道大会では最
優秀賞を逃しましたが、実績発表、純農
Boy、ともに最優秀賞受賞者に引けを
取らない堂々たる発表に会場内からは大
きな拍手が送られていました。



あの豊頃ストロングスメンバー
と夢の共演!

十勝大会
最優秀賞
受賞CM
はこちら →



青年部 管外研修

12月6日から7日にかけて管外研修を開催しました。今年度は岩見沢市の㈱スマートリンク北海道にて講習会、長沼町のあいすの家にて工場視察研修を行いました。

㈱スマートリンク北海道では、岩見沢市で実際に取り組まれているスマート農業の実例を紹介し、作業時間の削減や、農作物の収量を上げるためにデータを活用するなどの講演を受けました。

あいすの家の工場視察では、生乳をアイスに加工するまでの製造機器類の説明を受け、他にもチーズの製造の関する話など、普段は立ち入れない工場を視察する貴重な体験となりました。視察の最後は店舗にて実際にアイスを食べ、おいしいアイスに舌鼓を打ちました。

研修先では、部員の一同真剣な眼差しで興味津々に話を聞く場面が多く、有意義な研修でした。



ハロウィン2024 ～青年部でハロウィンカボチャを設置～



10月15日、今年も青年部で育てたハロウィンカボチャを飾り付けし、町内の保育所と小学校に設置しました。

カボチャは例年よりも少し小ぶりなサイズではありましたが、きれいな形ができました。青年部員がデザインしたカボチャの中には農機メーカーのエムブレムもあり、多種多様な顔をしたカボチャは子どもたちに大変喜ばれました。

来年以降もカボチャを設置する予定ですが、来年はもっと大きなカボチャが飾れるよう、青年部に期待してください！

畑作 収穫



馬鈴薯収穫

8月下旬から種子馬鈴薯79haの収穫が始まり、加工馬鈴薯574ha、澁原馬鈴薯226haの馬鈴薯の収穫を終了することができました。

本年も、35度を超える猛暑日が観測され雨量が少なく干ばつ状態が続きましたが夜温が低い日が多く茎長が平年より短くなりましたが倒伏しづらい馬鈴薯になりました。1株あたりの芋数も平年を上回り加工馬鈴薯の一部品種では低比重になることがありましたが昨年に続く豊作基調で推移しました。品種間の差があるものの種子用51俵/10a、加工用69俵/10a、澁原用75俵/10aと澁粉価については19.7%と平年より高い結果となりました。

豆類収穫

本年度は大豆類507ha、小豆類755ha、金時類165ha、手亡類247haの作付となりました。豆類全般において播種作業は適期に完了し出芽も良好でしたが6月中旬以降の降雨が少なく干ばつの状態が8月下旬まで続きました。草丈は平年を下回っていましたが積算温度が高く生育ステージは平年より進み天候に恵まれた中での収穫がスタートされました。

大豆類では生育が順調に推移し、豊作傾向ではありましたが不揃いな粒形が目立ち製品歩留まりの低下が見込まれています。金時類では例年より早く黄変期を迎え収穫が進み、高温・干ばつの影響により着色不良が目立つ結果となりました。手亡類では9月中旬から2次成長が始まり、収穫物には汚粒が散見され昨年に続き苦労した年になりました。小豆類では黄変期が早く莢付きも良好で屑粒率は平年より低かったですが小粒傾向となり平年並みの収量に落ち着きました。大豆類5.6俵/10a、小豆類4.1俵/10a、金時類3.3俵/10a、手亡類で4.5俵/10aとなりました。



4品の 風景



小麦収穫

本年産の小麦の収穫は7月19日から始まり、大きな事故・トラブルもなく7月26日に無事終了しました。本年産の「きたほなみ」の作付面積は1323.49haで、平均反収は乾麦11.74俵、製品11.26俵、歩留は95.9%となりました。秋の播種期以降の天候は大きく崩れることなく、生育は順調に進み越冬期を迎えました。越冬後の生育については、起生期、幼穂形成期にかけて平均気温が高く推移し、過繁茂傾向で平年よりも5日ほど早く生育が進み、止葉期を迎えました。6月以降は曇天が続きましたが、乳熟期における登熟期間が十分に得られました。そのような中で生育が進んだことにより、最終的な穂数が確保でき、登熟も順調に進み平年を上回る収量となりました。

ビート収穫

4月下旬より播種・移植作業が始まり、作付面積は354.74ha（内直播266.91ha）となりました。播種期以降は好天に恵まれ、出芽・活着は良好でしたが、その後の干ばつの影響で生育は一時停滞していました。7月中旬以降の降雨により生育は回復し、根部肥大が順調に進みました。昨年に引き続き褐斑病やヨトウムシ等の病害虫の初発が早く、蔓延が危惧されましたが、適切な防除により感染拡大を抑えることができました。

反収は平年を上回る7.5t/10aが見込まれ、糖分については平年並みになると予想されています。



第2回異業種スポーツ交流会開催!

第2回スポーツ交流会



11月16日、農協青年部・農協職員組合の共同開催によるスポーツ交流会を開催し、町内団体から総勢62名が参加しました。

豊頃農協川口修専務理事より祝辞をいただき盛大に開催した本交流会は、8チームに分かれて大縄跳び、ぐるぐるバットリレー、綱引き、選抜リレーの4種目で競い合い、各チーム協力し合いながら懇親を深めました。MVPには増子丈さん（農協職員組合）が選ばれ、大盛り上がりそのまま懇親会へ。

続く懇親会でも終始笑いが絶えず、各団体間の交流がますます深まり、次の開催が大いに期待される交流会になりました。

職員 救命訓練

11月25日に本組合消防計画に基づき職員を対象に救命訓練を行いました。講師には豊頃消防署警防2係2名が来所しました。「応急手当の基本基礎」「AEDの使用方法」「アナフィラキシー」についての説明を聞き、実技が、今年度より本部事務所正面玄関横に新しくオートショックAEDに入れ替えたので、最新のAEDを実際に体験することができ旧式との違いを学びました。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い致します。

お正月、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は例年、寝正月になってしまうので今年は何か新しいことに挑戦するお正月にしたいなと思います。

組合員の皆様、ご家族の皆様におかれましてはより良い一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

企画係 T.M

